

にしじ

新春座談会 高知医療センター 広報活動と地域医療連携 ～にしじ100回記念号出版を迎えて～

..... P2～P5

- 座談会 高知医療センターの広報活動と地域医療連携 P2～P5
- 第53回：医療センター職員による学会主張報告
第56回 日本腎臓学会学術総会 P6
- 地域医療連携病院のご紹介 Vol.72 医療法人 瑞風会 森澤病院 P7
- 高知医療センター・イベント情報 P8

2

FEBRUARY.2014 Vol.100



the 100th Memorial Issue

地域医療連携通信『にしじ』が、記念すべき第100号目を迎えました。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —



【参加者】岡林弘毅 高知県医師会長 / 竹村晴光 高知市医師会長
武田明雄 病院長 / 深田順一 副院長（広報委員会委員長） / 西岡豊 地域医療センター長

高知医療センター 広報活動と医療連携 ～にじ100回記念号出版を迎えて～

武田明雄病院長 挨拶



【武田明雄 病院長(以下、武田)】

当院もこの3月で10周年を迎えます。本院の役割であります急性期病院として機能していくためには、やはり医師会の先生方のご協力、地域との医療連携を強めていかなければならないと考えております。

その手段の一つとして、各医療機関に配布させていただいています「にじ」があります。ですから、この「にじ」を充実させていくことも一つの使命だと思っています。本日は、これまでの歩みを踏まえ、ぜひご示唆、アドバイスをいただきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

1. 広報活動の中における「にじ」の歩み

【西岡豊 地域医療センター長(以下、西岡)】

2005年10月に創刊した「にじ」も今年の2月で100号を達成することができました。これも先生方のご支援とご協力の賜物と思っています。本当にありがとうございました。本日は、「にじ」のこれまでの歩みと、今後の「にじ」の方向性、更には、今後の当院の広報活動全般に関して忌憚のないご意見をいただければと思っています。ちなみに、「にじ」の編集人は「地域医療広報委員特別編集委員」となっていますが、創刊以来、深田先生が一人で頑張って来られたもので、深田先生あっての100号達成と思っています。

「にじ」創刊号から第99号まで



【深田順一 副院長(以下、深田)】

開院準備前から地域医療機関への広報誌が必要という話がありました。当院は、地域連携を前提とする病院ですので、できるだけこの流れが早く、そしてスムーズに行くように、ということで、これを

目的に、地域の連携医療機関に向けた医師目線の内容で作成していこうというところからスタートしました。

当初はA3版の2つ折なども考えましたが、医師目線でお伝えしていきたいことを考えていくことで内容も膨らんでいくだろうと、思い切って最初から8ページ構成としました。

病院を立ち上げた直後でしたので、内容は、設備が進んでいく診療内容の紹介を最優先とし、最初は外来・センターなどの機能紹介を、次に、更に踏み込んだ各科の診療内容について症例等を入れて紹介してはと考えました。

先にも述べましたように「にじ」の表紙には、一般向けにはアナウンスしていない地域連携室の直通電話番号や救急関係の電話番号なども記載するなど、最初から連携先の医療機関、そして先生方向けに作成するという姿勢を続けています。そしてこれによって診療の紹介に当たっても、実際の手術写真や病理組織を掲載するなど、医療側の視点から突っ込んだ情報発信を行うことができ、このことが結果的に先生方の信頼を得ることに繋がればと考えてきた訳です。

「にじ」の掲載記事の変遷

お手元のまとめに示しますように、これまでの内容は、人事関係・挨拶、当院の地域医療機能の紹介、連携先医療機関の紹介、院内診療機能の紹介、講演会・研修の案内、症例紹介、各種評価（自己評価、外部評価）の紹介などに分類できます。このうち今までに紹介させていただいた連携医療機関は、本号での紹介施設も含め 73 施設となっています。

この他に、『学会出張報告』があります。当院は、医科だけではなく歯科の先生も連携先に入っておられ、また、最近はその専門分野も非常にめまぐるしく変化・進歩しています。自身に置き換えましても、他分野の最新の進歩を知るのなかなか困難です。ですので、連携先の先生方にも本院職員の出張報告紹介を通して、現在の状況を少しでも掴んでいただければという思いで掲載してきました。また、看護、栄養、医療技術などのコメディカルの領域においての院内での新しい試みなども報告していこうと始めています。このような中、30号くらいから最後にイベント情報、その前のページに連携先医療機関の紹介を掲載する現在のスタイルが固まりました。

以前は、直接先生方からのご質問を受けるような『Ask Our Professionals』などのコーナーを設けたこともありましたが、こちらはあまり進展しませんでした。また 85号からは、新企画として『画像、この1枚!』を始めましたが、こちらは材料はたくさんあるのですが、最近に掲載スペースに余裕がなく、まだ3回の掲載に止まっています。

「にじ」に関するアンケート結果

「にじ」に関するアンケートは、これまで3回実施してきました。【1回目:Vol.28(2008.2)、2回目:Vol.55(2010.5)、3回目:Vol.85(2012.11)】

1回目では、「にじ」をかなり読んでいただいていることが初めて分かり嬉しい思いを致しました。特に参考になりましたのは、『興味があった内容はありますか?』という問で、ここでは診療科紹介、地域医療内科系症例報告会（紹介症例の経緯報告を目的に年に2回開催）、地域連携医療機関紹介、外科グループ手術症例検討会、なんでもベスト5、学会出張報告などが上位に挙げられていました。『医師紹介で知りたいことは何ですか?』という問では、専門分野、出身大学、専門医、職歴、出身地などが挙げられていましたが、最近、詳しい情報を公開したくないと言われる先生もいらっしゃるのです。できる範囲での掲載となっていますが、患者さんを紹介していただくことが目的であるということはしっかり伝えて、その上で何を出すべきかを考えていただいているところです。

2回目のアンケートでは、若干「必ず読んでいる」の率が増えました。興味があった内容は1回目とほぼ同じですが、新任医師紹介、地域連携医療機関紹介、スペシャルな医療、内科系・外科系の症例報告が上位に挙げられました。

3回目では、初めて医科と歯科を分けてアンケートをとりました。ここで安心しましたが、歯科の先生にもこの内容で読んでいただけており、更に役立っているとの回答をいただけたことです。『興味があったもの TOP10』にはほぼ変化はありませんでした。

当院の広報活動全体の概要



【西岡】

資料に、当院の広報活動をまとめています。

地域医療連携通信「にじ」は、毎月1,400部発行で、県下の医療関係部署に配布しています。

地域医療センター便り「ほし」は、特に医療連携に特化した

内容で、偶数月にFAX、メールで送付しています。具体的には、紹介患者数や「くじらネット」利用者数、講演会・研修会の案内、医師着任・退任の案内等です。他には、学術雑誌、年報があります。

当院のパンフレット「Heart Book」は視察や病院訪問の際にお渡ししているもので、外来での配布はしていません。

当院の高度な医療等の紹介を行う「スペシャルな医療」というリーフレットも作成していますが、現在内容に改訂が必要ですので、こちらも外来での配布はしていません。

診療科案内「そら」は、最終的には全診療科分作成を目指して現在作成しているところです。外来で配布をしています。かなり受けもよく、増刷のかかる診療科もあります。

この他に、医師に特化した「医師紹介カード」があります。こちらは一人の医師に特化した内容となっていますので、許可を得た医師についてのみ作成し、外来で配布しています。

院内広報誌「こころ」は、「にじ」が医療機関向けであるのに対して、一般向けの広報誌となっています。通常号3,500部（臨時号5,000部）を発行し、外来での配布や「にじ」に同封して医療関係部署へ配布しています。臨時号「診察ドクターの横顔」では、全診療科の医師について、顔写真、専門、資格、モットー等を掲載していき、これは地域の先生方にも役に立つと言っています。通常号は、医師による診療科案内・学会出張報告やコメディカル・委託業者によるエッセイなど多岐に渡った内容となっています。これらの出版物に加えて、最近はやはりホームページが重要になってきています。



2. 今後の高知医療センターの 広報活動と「にじ」

【西岡】これまでの報告を踏まえまして、今後の当院の広報活動全般、「にじ」に関してのご質問、ご示唆などありましたら、お聞かせいただければと思います。



【岡林弘毅 高知県医師会会長 (以下、岡林)】

このアンケートの結果ですが、8割を超える先生方が目を通されており、そのほとんどの方々が役に立っているとの評価をされているので、今の配信記事に対する不満はあまり

なさそうですね。

【西岡】アンケートの結果からはそういったことになります。病院訪問をした際にいただくご意見としては、医師や診療科の紹介など、当院のもっと内部の情報が知りたいといったご意見があるように感じますが、このあたりはいかがでしょうか。

【岡林】本当は、かかりつけ医の先生と医療センターの先生が実際に顔合わせをするのが一番よいのですが、紹介のきっかけとなる取っ掛かりとしては有用だと思います。

【西岡】病院訪問をしていますと、紹介する際に、専門が分かりにくいといった声も聞こえます。専門等の情報としては「こころ」の「診察ドクターの横顔」が分かりやすいと思いますが、これは年1回の発行ですので、いつもこれを見ながら紹介ということにはならないかと思えます。ですので、例えば、「にじ」の中にこういった情報を入れていただきたいたとか、ホームページにこういった情報をといるものがあればお聞かせいただければと思います。

【岡林】初めて紹介する際は誰先生にという指名ではなく診療科単位で紹介をし、2回目、3回目となる時に、この先生というようにリクエストするようになります。

【西岡】そうしますと、診療科の紹介の方が有用だということでしょうか。

【岡林】そうだと思います。

病院宛か院長先生宛か

【西岡】次に、「にじ」の発送先ですが、始めは病院宛に送っていましたが、後に病院長宛にしました。一長一短があると思いますが、このあたりはいかがでしょうか。

【岡林】おそらく勤務医の先生には届いていないのではないのでしょうか。

【深田】病院宛にすると地域連携室で止まってしまうのではないかと危惧をしました。内容は第一義的に医師目線ですので、まずは医師宛に、と宛名を変更したのですが、このためかえて連携室に情報が届きにくい、ということになっているかも知れません。

【武田】病院訪問をしていますと、やはり病院長のところで止まっているところもあるようです。

【西岡】一医療機関に何部もお送りするのは厳しいところもあり、悩むところです。

「こころ」と「ほし」



【竹村晴光 高知市医師会会長 (以下、竹村)】「にじ」には専門医の紹介を入れていただきたい。あと、実は、「こころ」が割と役に立っています。最後の外来診療予定表の医師名を見て、この日に紹介しようなどと使っていますので、この部分だけ切り離してファイルしています。

【岡林】毎月、この部分だけのコピーもお送りいただいていますね。

【竹村】特に、FAXはほとんど回ってないのではないのでしょうか。

【西岡】病院訪問をしましても、ほとんどの方が「ほし」について知らないということがあります。FAXだとどこに届くか分からないので、至急、送付方法を検討したいと思っています。

【竹村】診療所でしたら届くと思いますが、病院でしたらどこに届くか分かりにくいのかもかもしれませんね。

【西岡】診療科紹介以外でほしい内容などありますでしょうか。

【竹村】アンケート結果を踏まえて、その都度ニーズにあった内容としていけば、自ずとおもしろいものになるのではないのでしょうか。

【西岡】「こころ」は一般的なエッセイなど少しくだけた内容となっていますが、「にじ」は、今までの通り、症例報告などの内容で悪くはないということでもよろしいでしょうか。

【竹村】はい。

【西岡】地域の医療連携に特化した広報誌は珍しいようですね。

【深田】今回の座談会に向けて、「地域医療連携」と「広報誌」というキーワードでインターネット検索をしてみましたら、少数ですがいくつかヒットしました。多くの病院は患者さん向けの広報誌を発行していても、連携先医療機関向けに特化した広報誌を発行しているところはほとんどないようで、発行しているところでも、内容に症例報告などまで入っているところは皆無でした。ここは当院のユニークなところだと思います。この点、本日、先生方にも好意的に捉えていただけていることが判り、非常に嬉しく思います。他では、医師ではなく事務関係の方が作成していて、そこまで踏み込んでいけないところがあるのではないのでしょうか。それから本日、竹村先生からご助言いただきましたように、我々、つい目先の新しいものをと考えがちですが、一定の間隔でスタッフ構成や現在の診療機能などを繰り返しお伝えしていくことも必要だ、ということで今後に生かしていきたいと思っています。

広報とIT

【岡林】現在、IT世代との過渡期ですので、これから、更にITを用いた広報にシフトしていくのではないかと考えられます。

【西岡】現在、出版物のうちホームページに掲載しているのは「にじ」だけですが、今後、他のものも掲載していくようになるでしょうか。

【竹村】若い方は、スマートフォンでよく検索をしたりしますので、当然後は病院情報等もそうなるようになっていくのではないのでしょうか。



【西岡】 当院の広報委員会でも、最初の議題にホームページの閲覧状況の報告がありますが、閲覧数は右肩上がりです。

【深田】 どこ地域からの閲覧かが分かりますので、なにか工夫をした際に、それが反映されているかを確認しながらやっています。1年前にホームページをリニューアルする際には、皆がパソコンだけで見るわけではない、ということ念頭に置き、携帯端末にどう映るかということにも配慮しました。また、休診情報等は1週間単位で変わるものですので、情報提供側としてはこまめな更新を心がけています。

【岡林】 ホームページなどは、どうしても発信側の視点からの情報提供になりますので、受け手側から見ると検索しにくい、見にくいということもあります。ホームページについても患者さんからアンケートを取ってみる、意見を書いていただく、こういったところから意見を拾うとよいのではないのでしょうか。提供側からの視点のみで書かれた場合、受け手側のほしい情報がないこともよくあります。

【深田】 これまで患者さん側からホームページ含め、当院の広報に関するアンケートを取ったことはありませんでした。ありがとうございました。

【西岡】 診療科紹介など、「にじ」のアンケートの結果とホームページの閲覧者数がリンクしているようです。こういったところからも拾っていかないといけないですね。

【竹村】 病院によってはどこを見ればよいか分かりにくいホームページも多々あります。あまり複雑になりすぎても分かりにくいので、なるべく簡便にした方が見る側からするとよいと思います。

【岡林】 地域医療支援病院としては、紹介、逆紹介がメインとなろうものなので、この観点から、連携するうえで必要な情報ということで絞り込んでいけばよいのではないのでしょうか。

【西岡】 スムーズな紹介を助けるような記事を検討していきたいと思います。

【武田】 「にじ」の表紙に掲載している紹介・転院手順については、病院訪問した時にもよく説明することにはしていますが、まだまだ定着しきっていないという印象です。

【西岡】 「ほし」でも、それを補足すべく情報掲載をしていますが、肝心の「ほし」の発送方法が悪くて目にしていけない状況にあるようです。

今後にもむけて

【西岡】 ここでもう一度「にじ」に戻りますが、「にじ」については、深田先生の尽力があり100号となるわけですが、ここまでご苦労されたのではないのでしょうか。

【深田】 毎号、ほぼ一人裁いてきましたので、不安は常にありましたが、ある意味小回りが効きますので、急ぎの記事の

差し込みなど、締め切りに合わせて柔軟に対応できてきたという利点もあったように思います。

【武田】 余談ですが、「こころ」の表紙の写真は、当院の整形外科医によるものなんです。

【竹村】 いいですね。

【岡林】 「にじ」創刊号に、「地域完結型医療を目指して」とありました。ハード、ソフトすべてにおいて高知県の基幹病院としての機能を持った病院であることは確かだと思います。そういう意味で、目指される地域完結型医療にどんどん近づかれていると思います。高知県全体の医療の地域完結ということになりますと、県内の医療機関の全てがどう連携して機能を発揮していくかが重要と考えています。

【西岡】 特に、最近、救急、周産期においては、よく連携がとれるようになってきているのではないかと思います。

【岡林】 「にじ」創刊号の編集後記に、「コミュニケーションという“にじ”の架け橋を地域医療にも築きあげていきたい」とありますが、「にじ」というネーミングはどなたが考えられたものですか？地域との医療連携を示す“にじ”の架け橋、非常に良いネーミングだと思いますが…。

【深田】 確か最初にそういった話し合いがあったように記憶しています。

【西岡】 「ほし」、「そら」は、「にじ」に関連したかたちで付けていこうということでネーミングされたように思います。

【武田】 深田先生はネーミングには非常に凝っておられて、「くじらネット」の「くじら」も深田先生考案のものなんです。

【深田】 その「くじらネット」ですが、昨年初めて「くじらネット」運営委員会を開催しまして、その内容を95号に掲載しています。ここでも話題になったのですが、すでにお一人で60人分くらいを「くじらネット」に載せて利用されている先生もいらっしゃいます。慣れていただくとよいのですが。

【竹村】 「くじらネット」についても、Wi-Fi環境下でタブレット端末でのアクセスが可能となればもう少し利用が増えるかもしれないですね。

【深田】 そうですね。

【竹村】 これからも、「にじ」の編集、がんばってください。

【深田】 ありがとうございます。

閉会にあたって

【武田】 本日は、忌憚のないご意見をありがとうございました。地域連携というのは本当に大切だと思っております。その一つの手段として「にじ」があります。今後も、先生方と、顔の見える関係を築いていきたいと思っておりますので、ご指導のほど、宜しく願いいたします。

第53回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの職員はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第56回日本腎臓学会学術総会 in 東京 2013.5.10~12

腎臓内科・膠原病科 副医長 堀元直哉



学会会場前にて：堀元直哉医師

5/10～5/12に開催された第56回日本腎臓学会に参加させて頂きました。会場は東京駅の隣にある国際フォーラムで、写真は最終日のものです。気合を入れてこの原稿用の写真を撮った訳ですが、学会の看板の真後ろではフリーマーケットが盛大に開催中であり、客引きの声をかけられながらの撮影となりました。開催期間中は、日本三大祭に数えられる神田明神祭の真っ最中でした。毎年開催されているものと思っておりましたが、実は祭りは2年に1度で、2011年の祭りは東日本大震災の影響で街を巡行する「神幸祭」や「神輿宮入」が中止となっており、今年は4年ぶりだったようです。学会付近は巡航ルートから外れており雰囲気は全く味わえませんが、ホテルの軒先にぶら下がっている提燈を小一時間眺めてお祭り気分を高めつつ、11日から学会に参加した次第です。

私が普段診療させて頂いている腎臓病領域では、基礎医学の分野ではIgA腎症や急性腎障害、IgG4関連疾患血管や血管石灰化などの発症機序に関する研究が注目されています。以下、学会で得た知見を報告させて頂きます。

【IgA腎症】 今回の学会では順天堂大学の鈴木祐介先生よりIgA腎症発症のメカニズムについての講演がありました。IgA腎症では以前から上気道感染を契機に尿所見が悪化する事、扁桃腺摘出術で腎症が改善する事が知られており、粘膜免疫の関与が指摘されておりました。そこで、外来抗原が積極的に検索されておりましたが、今日まで特定の抗原は明らかになっておりません。彼らはIgA腎症の自然発症モデル(grouped ddYマウス)において、外来抗原の多い環境(conventional condition)と極めて少ない環境下(specific pathogen free: SPF)での飼育下では、conventional群で腎炎の増悪傾向が強くなり、TLR(Toll-like receptor: 自然免疫における病原体の認識に必須の受容体であり、B細胞や樹状細胞に発現している)9の有意な発現上昇があり、TLR9のリガンドを投与する事で尿アルブミンが増加する事を報告しています。更にIgA腎症患者でのTLR9遺伝子のSNP解析

においてはSNP(rs352140)におけるTT genotypeと組織学的重症度に相関がある事、TLR9発現量が高い群やTT genotypeを有する群では扁桃摘出術の治療効果が高い事が確認されている事、扁桃摘出後IgA値の減少度が高い症例ほど、扁桃でのTLR9の発現量が高く、扁桃でのTLR9発現量が高い患者は血尿、蛋白尿の寛解率が高い事などが報告されました。また、IgA腎症では、血中及び糸球体に沈着するIgA1には、糖鎖構造異常を持つIgA1が増加している事が明らかとなっておりますが、扁桃摘出術の治療経過中に血中糖鎖IgA1及び糖鎖異常IgA1免疫複合体の低下度が高い症例程、血尿・蛋白尿の寛解率が高い事などから、粘膜、特に扁桃における外来抗原の曝露がTLRの活性化、糖鎖異常IgAの産生を誘発し、IgA腎症の進展に重要であると報告されました。他、糖鎖異常IgA特異的IgG抗体と疾患活動性との相関の話や、ヒト扁桃上皮下B細胞についてのお話がありましたが、今後これらの知見を元にしたIgA腎症の非侵襲的な診断や治療効果判定に有用なマーカーの開発等が期待されます。

【膜性腎症】 糸球体上皮細胞に発現するM型ホスホリパーゼA2受容体(PLA2R)が成人発症の突発性膜性腎症患者における主要な抗原である事が2009年にBeckらにより報告されています。それまでも2002年にはneutral endopeptidase(NSP)が責任抗原である小児例の報告、その後は2011年に小児例でのbovine serum albumin(BSA)に対する抗体が膜性腎症を起こす事をDebiecらが報告しておりますが、成人例においてはPLA2Rが初めて責任抗原として明らかになりました。欧米ではこの疾患の60-80%程度に血清内の抗PLA2R-IgG4抗体が検出されると言われておりますが、今回の学会では名古屋大学の秋山先生が本邦の症例における抗PLA2R抗体陽性の割合について報告されました。現時点での結果は50%程度(二次性膜性腎症では8%)に留まっているとのことでした。欧米と日本での差異については更に検討が必要とされておりますが、抗PLA2R抗体価は膜性腎症の病状と正の相関を示し、病勢に先行して変動するため、予後予測などのbiomarkerとしての利用が期待されています。膜性腎症患者の全例に抗PLA2R抗体が見られる訳ではなく、腎移植後抗PLA2R抗体価が高値でも膜性腎症が発症しなかった症例も報告されております。抗体と腎症の関連については更に検討される必要がありますが、腎生検が困難で診断のつかないネフローゼ症例も経験しますし、今後の試薬開発に期待しております。国外では免疫染色のキットが販売されているようですが、国内では名古屋大学でしか測定できず、現状では一回の検査で相当な費用がかかるため、技術開発を急いでいるとの報告でした。

まだまだ謎が多い腎臓病ですが、このような知見を取り入れつつ診療技術の向上に努めて参りたいと思います。



医療法人 瑞風会 森澤病院

〒784-0004 高知県安芸市本町2丁目13-32
 TEL：0887（34）1155
 FAX：0887（34）1170

- （診療科） 内科、脳神経外科、皮膚科、放射線診断科、外科、整形外科、リハビリテーション科、循環器内科、胃腸内科、美容皮膚科、歯科
- （関連施設） 居宅介護支援事業所もりさわ、グループホーム ひのこの館
- （併設施設） 通所リハビリテーションもりさわ、森澤病院訪問リハビリテーション事業所、森澤病院訪問看護事業所



診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30～12:00	●	●	●	●	●	●	△
14:00～17:00	●	●	●	●	●	△	△

（休診日：土曜日午後、日曜、祝日、年末12/30午後より年始1月3日まで休診）

医療法人 瑞風会 森澤病院は、昭和48年4月に開院しました。安芸地区において、病院として地域の方の健康管理に貢献しています。

一般病棟（障害者施設等入院基本料）40床、療養病棟32床を有し、医師、看護職員、技術職員等との協同により、患者様のケアにあたります。介護事業として、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問看護、短期入所療養介護、居宅介護支援事業所、認知症対応型共同生活介護を行い、在宅介護・地域密着サービスにも力を入れています。

（森：森澤病院、高：高知医療センター）

高：貴院が現在力を入れていることを具体的に伺いたいです。

森：今日まで一貫として、地域の方の健康と安心・安全に貢献できるように努めてまいりました。地域医療の必要性を感じ、その必要性をさらに確かなものとするために、特に力を入れているのは、地域の医療機関との連携です。地域の方が適切で継続性のある医療を受ける事ができるように、地域との医療機関と密接な連携を図り、地域医療を積極的にすすめています。

高：地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなど伺いたいです。

森：地域との連携という面では、ケアマネジャーを始め地域包括支援センターとの関わりが一番多く、当院に入院された場合、必要に応じ連絡調整や情報収集を行ったり、入院中にはカンファレンス等の会議への参加や、退院（在宅復帰）前にはご家族立会いの上で、ご本人・ケアマネジャー・住宅改修業者・リハビリスタッフ・医療相談員・関係機関等と一緒に家屋調査（動作確認）を行い、退院された後の生活を見据えた連携を図る様

心がけています。

自宅へ帰る事が困難な場合には、ご本人・ご家族の希望に応じた施設・病院の紹介等、次の行先と一緒に探す援助も行っていきます。

医療機関との連携については、他院より入院相談があれば、紹介先の医療機関より提供して頂く情報を確認の上、必要に応じて事前にご家族に来院して頂き、患者様についての状況把握とご家族の意向を確認し、当院ができる事と出来ない事についての説明と同意を明確に話し合った上で入院をして頂いています。

高：在宅・介護支援について伺いたいです。（リハピリスト数や現状について）

森：現在、リハピリストスタッフ2名が訪問リハビリテーションに伺っています。また、件数は少ないですが、訪問看護も行っていきます。居宅介護支援事業所、安芸市の包括支援センターとの連携を図りながら、利用者の方が安心して生活できるように支援を行っています。

高：今後、貴院が目指されていくことなど伺いたいです。

森：地域医療への貢献。地域医療を取り巻く環境が刻々と変化中、今あらためて病院が目指すのは「患者様のニーズを的確に捉え、安心でやさしい医療の提供」。この実現に向けて病院職員一同が、力を合わせ、日々の努力を惜しまずに、業務に取り組んでいます。

高：最後に高知医療センターとの連携について伺いたいですか？

森：医療センターへの受診予約調整や、患者様の入院等の受入れ時にはいつも迅速な対応して頂きありがとうございます。高次医療機関でない十分な治療・判断が出来ない場合には、こちらから患者様の紹介をさせて頂いておりますが、急性期治療が終われば改めて当院で対応させて頂く等の連携を図らせて頂いております。また、医療センターの登録医に登録させて頂き、これまでと違った連携も図れるのではないかと期待しております。今後ともよろしくお願い致します。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。



地域連携スタッフの方々



在宅医療スタッフの方々



訪問リハピリストスタッフの方々

日	曜	高知医療センター イベント情報 2月～					
1	土	第29回 高知医療センター地域がん診療連携拠点病院公開講座 (参加費無料・事前申込不要)					
		内容	「胃がんと内視鏡治療」 「膀胱がんの診断と治療 一痛みのない血尿がでたら泌尿器科へ」 「乳がんについてーあなたを守る検診のすすめー」	講師	高知医療センター消化器内科 医長 大西 知子 氏 高知医療センター泌尿器科 主任医長 新 良治 氏 高知医療センター乳腺・甲状腺外科 科長 高島 大典 氏		
		場所	高知共済会館 3F 大ホール 桜	時間	14:00 ~ 16:30	対象	医療関係者、一般
		お問い合わせ: 高知医療センター 事務局 経営企画課					
7	金	第9回 総合診療科セミナー (参加費無料・事前申込不要)					
		内容	「消化管粘膜下腫瘍の新たな診断・治療法の確立に向けて」 「ESD から次世代・超低侵襲軟性内視鏡手術の最先端」	講師	香川大学医学部消化器・神経内科 講師 小原 英幹 氏 香川大学医学部消化器・神経内科 講師 森 宏仁 氏		
		場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	19:00 ~ 20:30	対象	医療関係者
お問い合わせ: 高知医療センター 事務局 経営企画課							
13	木	平成25年度医療安全推進週間特別講演会 (第9回医療安全管理研修会) (参加費無料・事前申込不要)					
		内容	「報告と連携～全職員で取り組む医療安全～」	講師	名古屋大学医学部附属病院 副院長 兼 医療の質・安全管理部長 長尾 能雅 氏		
		場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	18:00 ~ 19:00	対象	医療関係者
お問い合わせ: 高知医療センター 医療安全管理センター TEL:088-837-3000 (代) E-mail: iryoanzen@khsc.or.jp							
16	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2013 (参加費要、事前申込要)					
		内容	「肝臓外科治療の最前線」	場所	高知新聞放送会館 東館8F 81号		
		講師	高知医療センター 消化器外科 医長 岡林 雄大 氏	時間	10:00 ~ 12:00	対象	一般 (70名)
主催: 高知新聞社、高知医療センター 協賛: アフラック高知支社 主管: 高知新聞社 お問い合わせ: 高新文化教室 TEL: 088 (825) 4322 (受講料 9600円 / 全12回、1500円 / 1回)							
16	日	第4回 高知医療センター看護実践発表会 (参加費無料、事前申込不要)					
		内容	基調講演 看護研究・実践発表 11題	場所	高知医療センター 2F くろしおホール		
		講師	琉球大学医学部附属病院 地域医療教育開発講座 教授 阿部 幸恵 氏	時間	13:00 ~ 16:30		
お問い合わせ: 高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX: 088 (837) 6766							
20	木	高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要)					
		研修名	BLS / AED 研修 (ガイドライン 2010)	場所	高知医療センター 2F スキルラボ室		
		講師	院内BLSインストラクター	時間	13:00 ~ 16:00	対象	看護師
お問い合わせ: 高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX: 088 (837) 6766							
26	水	第16回 高知医療センター 外科グループ手術症例検討会 (参加費無料)					
		内容	症例発表5~6題 (予定)	場所	高知医療センター 2F くろしおホール		
		時間	19:00 ~ 21:00	対象	医療関係者		
お問い合わせ: 高知医療センター・地域医療連携室							

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

「にじ」100号の編集後記ということですが、さすがに感慨深いものがあります。お役目柄とは心得ていたものの、広報誌の作成というのは全くの未経験の分野でしたので、当初はほんとに毎月、紙面が埋められるか、と不安が一杯だったと記憶しています。しかしこの間、院内外の多くの方が原稿作成にご協力くださり、さらにその原稿原案を紙面上で記事の形に整えてくれた尾崎由理さん、柏侑里さん、そして現在の正木英由子さんと3代にわたる編集スタッフが、皆さんほんとうに優秀だったことは私にとって大きな幸せでした。今回の座談会では、当面、医師目線で、という、全国的にもユニークな紙面作りをこれまで通り続けていっていいものと評価していただきましたので、今後も、何とか行けるところまで頑張っていこうと思っています。それから、この機会に、奥付の“編集者”の箇所も個人名にして、責任の所在を明確に致しました。本誌への感想やご要望など、従前にも増して頂戴できればと期待します。今後ともよろしくお願い致します。(深田 順一)



平成26年2月1日発行
にじ 2月号 (第100号)
毎月発行
編集者: 深田 順一
発行者: 武田 明雄
印刷: 株式会社高陽堂印刷
発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL: 088 (837) 3000 (代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp